論　文

“(动态动词+) 上+来 / 去” と客体との関係について

高橋弥守彦　(大東文化大学外国語学部)

Concerning the Relationship between “Action Verb + *shang* + *lai/qu*” and Objects

Yasuhiko TAKAHASHI

内容提要

移动动词有三种：动态（移动）动词、位置移动动词和趋向移动动词。名词可分为四种生命体和六种非生命体。以“上山”为例，位置移动动词“上”表示自下而上的移动，其对象是角度性名词“山”。将“上山”作为最基本的短语组合，从短语论的观点“短语论上的意义”「連語論的な意味」和“结构上的形式”「構造的なタイプ」来看，可以把空间领域的“上＋空间词”这一组合分为六种结合体。以表示人的移动“上”和空间词的结合体为基础，人的移动可以图示出来，基于表示“上”这一移动的机能，可以从空间领域转换到其他领域。

本文以“上＋客体”后面使用趋向动词「“上＋来 / 去”」和客体，以及其前面使用动态（移动）动词即「动态（移动）动词＋“上＋来 / 去”」和客体为研究对象，在分析二者结构的基础上，进一步阐明这两种结构的客体使用什么样的名词。

キーワード：動詞連語　位置移動の動詞“上”　客体　連語論　むすびつき

目次

0．はじめに
1．位置移動の動詞“上”と客体との関係
2．“上＋来 / 去”と客体との関係
3．“动词＋上＋来 / 去”と客体との関係
4．おわりに

0. はじめに

筆者は連語論の観点から、一般に言われている動補連語“走上来、游下去”を動詞連語と言い、各移動動詞の有する意味により、有様移動の動詞（“动态移动动词”は以下「動詞」“动词”と略称）“走、游”、位置移動の動詞“上、下”、趨向移動の動詞“来、去”の3類に分けている。本稿で分析の対象とする“(动词＋）上＋客体＋来／去”のなかの“上”は位置移動の動詞の一つである。

“上”の基本義は、下から上への位置の移動を表す意味［あがる］なので、その対象は角度性の空間詞“山坡”［山の斜面］や“楼”［階段］であり、“上＋空间词”が基本構造である。筆者の分析によれば、下記［表1］の“上＋空间词”を基本とする4構造で作る“上”は、一般に補語と言われているが、どの構造であっても、文成分としては述語である。また、以下に挙げる空間詞以外の客体の異なる連語とのくみあわせ「“上”＋空間詞以外の客体」（例1～5）の“上”も述語である。

［表1］“上＋空间词”を基本とする4構造

i “上＋空间词”：“他上楼了。”［彼は階段をあがった。］
ii “动词＋上＋空间词”：“他走上楼了。”［彼は歩いて階段をあがった。］
iii “上＋空间词＋来／去”：“他上楼去了。”［彼は階段をあがって行った。］
iv “动词＋上＋空间词＋来／去”：“他走上楼去了。”［彼は歩いて階段をあがって行った。］）

(1) 上山。（場所、『八百詞』p.302）
山に登る。（同上）
(2) 上了年纪。（時間、『八百詞』p.303）
年をとった。（同上）
(3) 我正上着螺丝呢。（モノ、『八百詞』p.302）
私は今ネジをつけているところだ。（同上）
(4) 车到下一站又上了几个人。（ヒト、『八百詞』p.302）
車（バス：筆者訳）が次の停留所に着くと、また何人か乗ってきた。（同上）
(5) 上了两堂课。（コト、『八百詞』p.302）
2コマの授業をした。（同上）

［表1］i “上＋空间词”を基本構造とするii「動詞＋“上”＋客体」は、客体が空間詞であってもそれ以外であっても、くみあわせは同じだが連語としての構造が異なる。例（6）の“跑上三楼”は“上三楼”が基本なので、“上”は述語であり、“跑”は“上三楼”の方式を表している。例（7）の“关上了房门”は“关房门”が基本なので、“上”には［移動］の意味はなく、“上”の機能である到着義からくる「ドアが閉まった」ことを表しているだけなので補語である。両構造のくみあわせの形式は同じだが、連語の構造が異なることにより、一方は述語、一方は補語となる。

(6) 一口气跑上三楼。(『八百詞』 p.304)
一気に3回まで駆けのぼる。(同上)

(7) 我也关上了房门。(『人民』 94-6-93)
私もドアを閉めた。(同上)

本稿では、[表1] i “上+空间词” を基本とするiii (例8)、iv (例10) の客体が空間詞で作る2構造および客体の違いにより、そこから派生する他の構造 (例9, 11) も分析の対象とする。基本となる2構造と他の派生構造を分析する際、「“上” +客体」「動態 (移動) 動詞+客体」「“上来” +客体」との関係に注目し、“上” の文成分についても検討する。なお、客体となる名詞は以下の [表2] のように分類する。

(8) 张老先生也上山来了。(《用法词典》 p.625)
張おじいさんも山に登ってきました。(筆者訳)

(9) 从山下上来了几个人。(『八百詞』 p.304)
山のふもとから何人か登って来た。(同上)

(10) 他们都跑上山去了。(《用法词典》 p.626)
彼らは山を駆け上っていきました。(筆者訳)

(11) 录取名单又补上来三个人。(《通释》 p.122)
採用者名簿にまた3人が書き加えられた。(筆者訳)

[表2] 名詞の分類

名詞 ┬ 生命体：ヒト (動物も含む)、カラダ、植物 (全体・部分)、組織
└ 非生命体：モノ、コト、心力 (理性・感情・感覚など)、自然力 (水・火・風・雷・音など)、空間、時間

1. 位置移動の動詞 “上” と客体との関係

“上+客体” の客体となる名詞には、以下の例文中に挙げるような種類がある。しかし、“上” は位置の移動を表す動詞なので、その基本となる客体は空間詞であり、「“上” +空間詞」が基本構造である。位置移動の動詞 “上” は下から上への位置の移動を表す [あがる] が基本義であるが、“上” とくみあわさる客体となる空間詞の形状とどの場所を使うかにより、意味が変化する。これはむすびつきの違いによる意味変化である。また、客体が空間詞以外であってもくみあわせにより、“上” は意味変化する。これは領域の転換による意味変化である。

連語論の観点から、鈴木康之 (2011：5) は「連語論的な意味」と「構造的なタイプ」とにより、連語を意味的に分類している。これに倣い「“上” +空間詞」を分類すると、[表3] と [表4] にまとめられる。

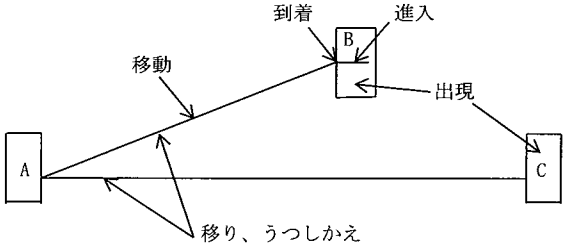
(12) 上楼的时候，孩子说：……（『人民』88-2-98）
階段を上がりながら、子供が言った。……（『人民』88-2-99）
(13) 日上中天时，他的孩子又开始哭起来。（『人民』97-3-87）
太陽が中天に上る頃になると、またまた赤ん坊の泣き声が聞こえてきた。（同上）
(14) 喂，咱们上法院。（講読①-62）
さあ、裁判所へ行きましょう。（講読①-70）
(15) 他心头一热，坦荡而磊落地上了车。（『人民』90-8-103）
彼は胸が熱くなり、つらさを振り払うようにパッと車に乗り込んだ。（同上）
(16) 老张的事迹上了报了。（『八百詞』p.302）
張さんの行った立派な行為が新聞に載った。（同上）
(17) 妈抱他上床，他还下来。（『人民』89-7-98）
母が抱き上げて寝かせても、また起きてくる。（『人民』89-7-99）

上掲に挙げる6例中の「“上”＋空間詞」を基本とする連語は、むすびつきの違いにより、“上”が基本義［あがる］（例12）から派生義［のぼる、行く、乗り込む、載る、移す］に意味変化するばかりでなく、モノ名詞“楼、船、报纸、床”や組織名詞“法院”も空間詞として機能している。単語レベルで空間を表す単語を基本空間詞と言い、連語レベルで空間を表す空間詞を派生空間詞と言う。連語「“上”＋空間詞」の“上”に意味変化が認められるばかりでなく、その対象となる名詞も連語のなかで意味変化する場合がある、と言える。これらの言語事実から単語は連語の各むすびつきのなかで意味変化が起きると言える。

［表3］「“上”＋客体（空間詞）」の作るむすびつき

i．空間的な移動のむすびつき（例12：空間での主体の移動）
ii．空間的な到着のむすびつき（例13：空間への主体の到着）
iii．空間的な移りのむすびつき（例14：空間から空間への主体の移り）
iv．空間的な進入のむすびつき（例15：空間への主体の進入）
v．空間的な出現のむすびつき（例16：空間における主体の出現）
vi．空間的なうつしかえのむすびつき（例17：空間での主体による客体のうつしかえ）

［表4］「位置移動の動詞“上”＋空間詞」で作る6類のむすびつき



上掲の空間領域のくみあわせを連語論的な意味と構造的なタイプとにより分類する各むすびつきが基本（[表3] と [表4][1]）となり、“上”の機能を表す [表4] に基づき空間詞以外の他領域とのくみあわせが可能となる。例（12）から（17）までの「“上”＋空間詞」の“上”は、いずれも主体によって主体自身の表す出来事が実現しているので自動詞（不及物動詞）である。しかし、次の例文のように客体がモノ名詞となると、連語内部のくみあわせのなかで、主体などの力によって出来事が実現するので、“上”は他動詞（及物動詞）となる。ここには客体の違いによる自動詞から他動詞への変化が認められる。

(18) 刚用铅笔画了个草稿，还没上颜色。(『八百詞』p.302)
　　鉛筆で下書きを描いたばかりでまだ色を塗っていない。(同上)

(19) 我正上着螺丝呢。(『八百詞』p.302)
　　私は今ネジを付けているところだ。(同上)

(20) 这表上了弦没有？（『八百詞』p.302)
　　この時計はネジを巻きましたか。(同上)

例（12）から（17）までの“上”は同一の位置移動の動詞だが、客体となる領域の違いにより、“上”は [表4] の“上”の機能に基づき、自動詞（例12～17）から他動詞（例18~20）へと意味変化する。例（18）の連語“上颜色”は [色を塗る]、(19) の“上螺丝”は [ネジを付ける]、(20) の“上弦”は [ネジを巻く] の意味で、例（12）の「空間的な移動のむすびつき」の移動の機能に基づき、客体の違いによる連語のむすびつきのなかで、自動詞“上”は移動義 [のぼる／あがる] などから他の力を借りて客体を実現する他動詞 [塗る、付ける、巻く] へと意味変化している。

上掲の例文中の自他同形語は自動詞の“上”に起こる。両者を区別する鍵は客体となる名詞の種類[2] である。“上”を用いる連語のなかでも客体が空間詞（基本空間詞“中天”と派生空間詞“楼”も含む）であれば自動詞、上掲に挙げるそれ以外の名詞であれば、出来事の実現に他の力を借りるので他動詞となる。

2. “上＋来/去”と客体との関係

“上＋来/去”と客体との関係は、構造的には一般に言われている動詞“上来、上去”と客体とのくみあわせではない。筆者の調査によれば、“上”は位置の移動を表すので、その対象となる客体は空間詞であり、[表1] i “上＋空间词”が基本となる。単語別にみれば、[表1] iii “上＋空间词＋来

---

1) 高橋弥守彦（2007）に例文と [表3] [表4] あり。

2) 言語事実から、“上”の客体には、空間詞とモノ名詞以外にも、ヒト名詞“车到下一站又上了几个人。”[車（バス：筆者訳）が次の停留所に着くとまた何人か乗り込んできた。]（『白水社』p.1237)、組織名詞“要去上大学了，这是一件多么令人高兴的事啊！”（『講読⑤』p.113) [大学に行くことになった。なんと嬉しいことだろう。] (同上p.119)、コト名詞“考试成绩上了九十分。”[試験の成績は90点に達した。]（『荒屋』p.533)、時間名詞“上了岁数。”[年をとった。]（『八百詞』p.303）などがある。これらの言語事実は、連語論の観点から見ると、“上”の意味変化は客体の違いによっても生じると言える。

/ 去”の構造となる。筆者はこの構造を“上＋空间词”と“来 / 去”からなると看做している。それは本構造で作る文“他上楼去了。”［彼は階段をあがって行った。］が、“去”の後に客体を用いて“他上楼去朋友的房间了。”［彼は階段をあがって友達の部屋に行った。］とも言えるからである。このように言えるとすれば、前者は“他＋上楼＋去＋了。”であり、後者は“他＋上楼＋去朋友的房间＋了。”からなる構造である。

連語論の観点からみれば、上掲の2例のうちの二つの出来事は、“上楼”［階段をあがる］が「空間的な移動のむすびつき」であり、前者の“去”［行く］は転移義で、後者の“去朋友的房间”［友人の部屋へ行く］は空間的な移りのむすびつきである。ただし、実例や辞典などに挙げる例文では、後者に該当する例文はほとんど見られない。

ここで連語論の観点から本構造に該当する例文を見てみよう。［表1］ⅰ“上＋空间词”は6類のむすびつきを作れるが、空間詞の後に“来 / 去”を用いる［表1］ⅲ“上＋空间词＋来 / 去”構造の“上＋空间词”は、以下に挙げる例文のように「空間的な移動のむすびつき」と「空間的な到着のむすびつき」しか作れない。［表1］ⅱ“动词＋上＋空间词”は動詞があることにより、12類のむすびつきを作れるが、［表1］ⅲは“来 / 去”があることにより、わずか2類のむすびつきしか作れない。この点から、基本的な文型で作る文は中心義後置のルールからできているので、後ろの単語ほど文に与える影響の大きいことが理解できる。

2.1. “上＋空间词＋来 / 去”で作る文

［表1］ⅲ“上＋空间词＋来 / 去”のうちの“上＋空间词”は、連語論的な観点からみれば、2類のむすびつき「空間的な移動のむすびつき」と「空間的な到着のむすびつき」を作る。

2.1.1. 空間的な移動のむすびつき“上＋空间词”と転移義“来 / 去”で作る文

［表1］ⅲ“上＋空间词＋来 / 去”の構造のうちの“上＋空间词”[3]の基本用法である「空間的な移動のむすびつき」からみていこう。

(21) 张老先生也上山来了。（《用法词典》p.625、前出例8）
張おじいさんも山を登ってきました。（筆者訳）

(22) 上山去，那儿风景不错。（《用法词典》p.626）
山を登ろう、あそこの景色は素晴らしい。（筆者訳）

(23) 他们是从这条路上去的。（《用法词典》p.626）
かれらはこの道から登って行きました。（筆者訳）

(24) 汽车上不去那个陡坡。（《动词例释》p.421）
車はあの険しい坂道をのぼれない。（筆者訳）

[3] 連語論の観点からみれば、例（21）の“上山来”や（22）の“上山去”は、構造的には「“上山＋来 / 去”」である。“上山”は「空間的な移動のむすびつき」、“来 / 去”は「転移義」を表す。これらの構造から“来 / 去”を取り、“上山”だけであれば、「空間的な移動のむすびつき」［山を登る］だけでなく、「空間的な進入のむすびつき」［山に登る］ともなる。

例 (21) (22) の出来事「“上＋空间词” ＋ “来 / 去”」のうち、“上＋空间词” はいずれも空間的な移動のむすびつきであり、“来 / 去” は転移義 (例 21, 22) を表している。例 (23) は “上＋空间词” の例文ではなく、位置移動の動詞 “上” に対して、介詞 “从” を用いて “这条路” を強調する文である。

例 (24) の連語 “上不去那个陡坡” と例 (21) (22) の構造 “上山来 / 去” を比較してみよう。前者は「動詞連語の否定式 “上不去” ＋空間詞」であり、後者は「選択連語 “上＋空间词” ＋趨向動詞 “来 / 去”」である。動詞連語 “上＋来 / 去” の否定式は空間詞の前に用いている。例 (24) は動詞連語の否定式 “上不去” なので、否定式の動詞連語と空間詞のくみあわせの意味から、単語間のくみあわせによるまとまり性が連語「動詞 “上” ＋名詞 “那个陡坡”」より、いっそう強くなり、例 (21) (22) の転移義を表す趨向動詞 “来 / 去” が空間詞の前に用いられ動詞連語の否定式を作る、と言えるであろう[4]。

本構造 “上＋空间词＋来 / 去” は、言語環境がありさえすれば空間詞を用いない動詞連語 “上＋来 / 去” だけで、文 (例 18～23) を作れる場合が相当数ある。それが以下のような文となる。ただし、文法的手段を用いれば、この動詞連語に空間詞を用いる “上＋空间词” の連語とは異なる構造で文を作る場合もある。それは空間詞を文頭に用いて空間を強調する文 (例 22) である。

(25) 他还在山下，我们都上来了。(《用法词典》p.625)
私たちはみんな登ってきましたが、彼はまだ山の下です。(筆者訳)

(26) 屋顶那么高，我们怎么上去？ (《用法词典》p.626)
屋根があんなに高いのだから、上れるわけがない。(筆者訳)

(27) 你们爬山吧，我不想上去了。(《用法词典》p.626)
皆さんは山に登ってください。私は登りたくなくなりました。(筆者訳)

(28) 我累了实在上不去了。(《用法词典》p.626)
疲れてしまったので、どうしても登れなくなった。(筆者訳)

(29) 再高的山他也上得去。(《用法词典》p.626)
もっと高い山でも彼は登れます。(筆者訳)

(30) 这儿真高，我以前没上来过。(《用法词典》p.625)
ここは本当に高いな、私は以前登ったことがなかった。(筆者訳)

上掲の文には肯定文もあるが、否定文が多くみられる。例 (26) は反語文による否定式であり、(27) (30) は “不” “没” を用いる否定式であり、(28) は動詞連語の否定式である。例 (29) は動詞連語の肯定式であり、客体を文頭に用いることにより、客体を主題として前置し、客体を強調する

---

4) 現代中国語のなかでも動詞連語の否定式が客体のあとと前にある場合とがある。現代中国語では一般には後者が圧倒的に多いであろう。しかし、下記の実例にもみられるように前者のくみあわせもある。
夫人见瞒他不住，便唯唯称是。(『人民』94-2-93)
隠しおおせないと見た夫人は、その通りですと答えました。(同上)
什么事也瞒不住他。(《常用》p.464)
何事も彼に隠しておくことはできない。(筆者訳)

文である。(30) の“上来”は一般には動詞と言われているが、筆者の分析によれば、動詞ではなく動詞連語“上来”である。それは例 (21) のように“上山来”と言えるからである。

2.1.2. 空間的な到着のむすびつき“上＋空间词”と転移義“来 / 去”で作る文

［表1］iii“上＋空间词＋来 / 去”の構造のうちの“上＋空间词”は、以下に挙げる例文のように「空間的な到着のむすびつき」も作る。

(31) 我们上你们五层来聊天儿。(《用法词典》p.625)
私たちは五階にあがって、お話をしましょう。(筆者訳)

(32) 牛郎在黄牛的帮助下，也拥有了上天的能力，他把儿女装在两个筐子里，挑着他们，上天去追赶织女。(『幼学瓊林』p.57)
牛彦は牛に助けられ、天へ昇ることができるようになり、二人の子供を二つの篭に入れ、それを担いで天に昇り、織姫のあとを追っていきました。(同上、p.62)

例 (31) の“上你们五层”は［あなたたちの住んでいる5階に上がって］の意であり、“来”は「行く」[5] の意である。例 (32) の“上天”は［天にのぼる］の意、“去”は［行く］の意である。

以下の文は、いずれも構造上から見れば、例 (32) と同様である。しかし、例 (32) の“上”は［のぼる］の意味があるが、以下の文には、その意味がない。たとえば、例 (33) の“上外地去”は“去外地”と基本的な意味が同じである。そのため、筆者は3単語で2単語と同じ意味になる例 (33) などの“上”は動詞ではなく介詞と看做している。

(33) 我很少上外地去。(《动词例释》p.421)
私はめったによその土地へ行かない。(筆者訳)

(34) 他们几个人一块上北京去了。(《用法词典》p.626)
かれら何人かはいっしょに北京に行きました。(筆者訳)

(35) 几个小青年说着竟然上前来摸他的口袋。(『人民』88-6-93)
若い者が二、三人立ってきて、白さんのポケットをおさえた。(同上)
若い者が二、三人やってきて、白さんのポケットを探った。(筆者訳)

(36) 你上前去问问那位老人去邮局怎么走。(《用法词典》p.626)
郵便局に行くにはどうやっていくのか、あの老人にちょっと尋ねてみてください。(筆者訳)

2.2. “上＋来 / 去”と空間詞以外の客体で作る連語

“上＋来 / 去”と空間詞以外の客体で作る連語は、筆者の調査では以下のような文が挙げられるが、客体はヒト領域だけであり、一つのくみあわせ「動詞連語“上＋来 / 去”＋客体“数量词＋人名词”」しかない。

---

5) 例 (31) の例文は、非常に親しい人間関係間で使われる筆者の言う身内型表現“我马上就过来。”［すぐ行きます。］であり、“来”は一般の関係であれば、“去”で表現“我马上就过去。”する。例 (31) も同様であり、“我们上你们五层去聊天儿。”という。

(37) 从楼下上来几个学生。(《用法词典》p.625)
下から何人かの学生が上ってくる。(筆者訳)
(38) 你们先上来一个人看看。(《用法词典》p.625)
皆さんは一人が先に上がって来て、ちょっと見てみなさい。(筆者訳)
(39) 咱们先上去两个人看看。(《用法词典》p.626)
私たちはまず二人が上がって、ちょっと見てみます。(筆者訳)

位置移動の動詞“上”は空間詞とのくみあわせが基本“上+空间词”であるが、この連語のなかの“上”の機能に基づく領域の転換「“上”+空間詞以外の客体」により、いろいろな種類の客体とくみあわさる。また、領域の転換により、自動詞だけでなく他動詞としての用法も生じる。しかし、“上”が趨向移動の動詞“来 / 去”とくみあわさる動詞連語“上+来 / 去”は、移動義しか表せなくなるので、“上”の客体は空間詞以外となると、上掲の例文に見られるように移動行為を行えるヒト名詞しかない。筆者の調査では、この構造「動詞連語“上+来 / 去”+客体“数量词+人名词”」もわずか一類だけである。

3. “动态（移动）动词+上+来 / 去”と客体との関係

動詞連語“动态（移动）动词+上+来 / 去”と客体との関係は、言語事実からみれば、客体には空間詞が一番多く用いられているが、それ以外の名詞も用いられている。しかし、連語論の観点からみれば、動詞連語を作る有様移動の動詞・位置移動の動詞・趨向移動の動詞はすべて移動を表すので、その対象となる客体は空間詞が基本である。その他の客体は3類の移動動詞の機能によるくみあわせであり派生用法である。

連語“上+空间词”を基本として、[表1] に挙げる4構造が作られる。ⅳの構造“动态（移动）动词+上+空间词+来 / 去”も例外ではなく、他のⅱ，ⅲ構造と同様であり、“上+空间词”が基本となっている。客体が空間詞以外であれば、3類の移動動詞の機能により、[表1] ⅳ以外の構造も見られる。

3.1. “动态（移动）动词+上+来 / 去”と空間詞との関係

連語論の観点からみれば、“上”は位置移動の動詞なので、その対象となる客体は空間詞が基本である。前節のくみあわせ「“上+空间词+来 / 去”」の前に有様（移動の）動詞が加わる本節の構造「“动态（移动）动词+上+来 / 去”と空间词の関係」であっても、下記の例文に見られるように、文法的手段を用いない限り、空間詞の位置は一か所しかない。すなわち、“上+空间词”が基本構造だと言える。

3.1.1. “动词+上+空间词+来 / 去”で作る文

動詞連語“动态（移动）动词+上+来 / 去”と空间词とのくみあわせであれば、以下の例文に見られるように、空間詞の位置は一か所“动词+上+空间词+来 / 去”である。なお、趨向移動の動

詞には2類の意味[6]がある。

(40) 他们都跑上山去了。(《用法词典》p.626)
彼らは山を駆け上っていきました。

(41) 登上那座岛去。(《用法词典》p.626)
あの島に上がりましょう。

(42) 这时，有一个叫毛遂的人走上前来，向平原君自我推荐说："我叫毛遂，听说您的随从人员还缺少一个，希望您把我当成那第二十个人。"(『幼学瓊林』p.22)
その時、毛遂という者が前へ進み出て、平原君に自己推薦しました。「毛遂と申します。随行する者があと一人足りないとお聞きしましたが、どうか私を20人目としてお入れください。」(同上、p.24)

(43) 老孙头这时不知从哪里来的一股劲，竟然敏捷地一步跨上前去，伸出手臂抱住了奔跑中的小姑娘，紧接着抽身撤步。(『人民』88-5-91)
どこに一体こんな力がひそんでいたのか、孫老人はサッと足を一歩踏み出すと、手を伸ばして駆け去る女の子を抱え込んだのだ。そして、つかさず身をかわしてしりぞいた。(同上)

(44) 这孩子爬上桌子来了。(《用法词典》p.625)
この子は机によじ上ってきた。(筆者訳)

(45) 医生对我说："躺上床去检查一下。"(《用法词典》p.626)
「ベッドに横になって検査をしましょう」とお医者さんが言いました。

本構造の"动词＋上"は空間的な移動のむすびつき（例40)、空間的な到着のむすびつき（例41, 44)、空間的な移りのむすびつき（例42, 43)、立ち居のむすびつき（例45）の4類に分けられる。"来／去"は空間詞をとれるか否かにより、転移義または趨向義の二類に分けられる。本構造であれば、"上"はいずれも述語または述語の一部である。

筆者の調査によれば、動詞連語の語順は「各移動動詞の行われる順序」(例40, 42, 44）と「有様＋有様を実現する移動動詞の順序」(例41, 43, 45）に大別される。前者は各移動動詞の行われる順序で移動が示され、後者は有様とそれを実現できる移動動詞の表現である。両者における3類の移動動詞の語順は同じである。たとえば、例（40）の"跑上山去"は"跑"［走る／駆ける］が有様による移動を表し、"上山"［山を登る］が位置の移動を表し、"去"が視点のある移動を表す。例(41）の"登上那座岛去"はまず有様"登"［のぼる］が行われ、次に有様を実現する行為"上那座岛"［あの島に上がる］が行われ、最後に視点のある移動"去"が行われる。3類の動詞連語で現す

[6] 筆者は本構造を2つに分ける理由として、例（40）のように趨向移動の動詞の後に空間詞を用いることのできる"他们都跑上山去亭子了。"("跑上山""去亭子") を挙げるが、次の例文（"坐上孙儿的皇冠轿车""到县城去") もその傍証となるであろう。
他耐不住众口的左劝右劝，便坐上孙儿的皇冠轿车到县城去了。(『人民』94-3-93)
みんなに何度も何度もすすめられて謝宝興も根負けし、孫が運転するクラウンに乗って県城に行きました。(同上、94-3-92)

語順はどの文であれ、前者か後者のどちらかに属する。なお、動詞連語の先頭に用いるは有様移動の動詞は、例（45）のように移動を表さず、動作“躺”や行為“拿”（“他从书架里拿出一本书来了。”［彼は本棚から本を一冊取り出した。］）だけを表す有様動詞もある。

以下に挙げる２例は上掲の２類の構造と同様、移動動詞と空間詞とのくみあわせではあるが、構造は異なる。

（46）没想到，他谢别了司机，一边上楼梯一边挥手喊：“上楼，扛到三楼上去！”（『人民』95-1-101）

ところがなんと、運転手に礼を言って帰した先生は、階段を昇りながら手を振っておっしゃたもんだ。「上だ、三階に運んでおくれ！」（同上、95-1-100）

（47）开学了，没等娘催促，我便踏上去学校的大路。（『人民』97-5-87）

だからこの時ばかりは、おふくろに尻を叩かれるより早く、授業が始まると早速学校に顔を出したのだ。（同上）

例（46）の“扛到三楼上去”は“扛到三楼”［担いで３階まで行く］と“上去”［あがって行く］に分かれる。例（47）の“踏上去学校的大路”［学校へ行く道に足を踏み入れる］は“踏上大路”［道に足を踏み入れる］が基本で、“去学校”は“大路”の限定語である。

3.1.2. “介词＋空间词＋动态（移动）动词＋上＋来 / 去”構造で作る文

３類の移動を基本とする動詞と空間詞との関係は、上掲の構造以外に、以下の例文に見られるように、動詞連語に対して、介詞“从”を用いて空間詞を強調する用法がある。

（48）他是从这儿爬上来的。（《用法词典》p.625）

彼はここから登ってきた。（筆者訳）

（49）他们从后边赶上来了。（《用法词典》p.625）

彼らは後ろから追いついてきた。（筆者訳）

例（48）の“从这儿爬上来”、（49）の“从后边赶上来”は動詞連語“爬上来、赶上来”に対して、介詞“从”を用いて空間詞を強調する用法である。

3.2. “动态（移动）动词＋上＋来 / 去”と空間詞以外の客体

動詞連語“动态（移动）动词＋上＋来 / 去”と空间词以外の客体とのくみあわせであれば、以下の例文に見られるように、空間詞以外の客体の位置は何ヵ所かある。

3.2.1. “动态（移动）动词＋客体＋上＋来 / 去”構造で作る文

“动态（移动）动词＋上＋来 / 去”と空间词以外の客体とのくみあわせであれば、以下の文に見られるように「動詞＋客体」だけではなく、離合動詞「動詞語素＋名詞語素」を基本とする「離合動詞＋“上来 / 去”」（例 50）の構造もある。

（50）“——听见没有？警卫员！叫军需处长跑步上来！”（『講読』②-47～48）

「——聞こえないのか、君！軍需処長に駆け足でやって来いと言え！」（同上、p.51）

本構造“动态（移动）动词＋空间词以外的客体＋上＋来 / 去”はきわめて少ないが、刘月华（1998）

では何例か挙げている。

(51) 江涛解下腰带，想拉他上来。(《通释》p.119)

江涛は帯をほどいて、彼をひきあげようとした。(筆者訳)

(52) 温素玉又添了一盘花生米上来。(《通释》p.122)

温素玉は落花生をもう一皿持ってきた。(筆者訳)

例 (51) の客体はヒト代詞、(52) はモノ名詞で、これらはいずれも「动态（移动）動詞＋空間詞以外の客体＋“上来”」である。この構造では「動詞＋空間詞以外の客体」が主体の行為を表し、“上来”が移動を表している。

3.2.2. “动态（移动）动词＋上＋客体＋来 / 去”構造で作る文

動詞連語“动态（移动）动词＋上＋来 / 去”と客体とのくみあわせであれば、言語事実からみると、客体には空間詞が一番多く用いられ、［表1］iv“动词＋上＋空间词＋来 / 去”の構造を作る。客体には空間詞以外の名詞も用いられる。その場合であっても、構造は空間詞を用いる［表1］iv で作る場合が一番多い。

(53) 郝秘书的前任秘书听了有关他的风言风语，专门找上门来，……（『人民』97-7-87）

この噂を聞いた郝平の前任者が、わざわざ彼を訪ねてきた。……（同上）

(54) 他们已经搬上家具来了。(《用法词典》p.625)

彼らはもう家具を運んできた。(筆者訳)

(55) 后来他听说百里奚是个杰出的人才，就打算带上贵重的礼物去楚国把百里奚赎回来。(『百家姓』p.155)

しかし後から百里奚は賢才との評判を知って、秦穆公は手厚い贈り物をもって楚国から百里奚を請け出そうと考えました。(同上、p.158)

(56) 谁能回答上这个问题来请举手。(《用法词典》p.625)

この質問に答えられる人は手を挙げてください。

(57) 他教过许多学生，可叫不上几个名字来。(《用法词典》p.625)

彼はたくさんの学生を教えたが、名前は数名しか挙げられない。(筆者訳)

上掲の各文はいずれも“动词＋上＋空间词以外的客体＋来 / 去”構造を用いる文である。これらの構造は一般には「“动词＋上＋空间词以外的客体”」と“来 / 去”とに分かれる。しかし、(55) だけは「“动词＋上＋空间词以外的客体”＋“来 / 去”＋客体」の構造である。例 (55) から連語「“来 / 去”＋客体」“去楚国”［楚国へ行く］が空間的な移りのむすびつきを作っていることが分かり、この構造が2つの連語（“带上贵重的礼物”“去楚国”）に分かれることがはっきりとする。

この点から、例 (53) の客体はモノ名詞だが連語レベルでは空間詞であり、(54) と (55) の前項はモノ名詞、(56) (57) はコト名詞である。

3.2.3. “动态（移动）动词＋上＋来 / 去＋客体”構造で作る文

動詞連語“动态（移动）动词＋上＋来 / 去”と客体とのくみあわせであれば、言語事実からみると、下記に挙げる例文のように、客体が連語の一番後にある構造「“动词＋上＋“来 / 去”＋空间词

以外的客体”」を用いる文がある。

(58) 在门快要关闭的时候，车门里伸上来一根竹竿。(『人民』96-12-85)
ドアがまさに閉まろうとした時、一本の杖が伸びてきた。(同上、96-12-84)

(59) 他在点心上又撒上去一层白糖。(《用法词典》p.626)
彼はお菓子の上に砂糖をかけた。(筆者訳)

(60) 他能说上来公园里所有的花名。(《用法词典》p.625)
彼は公園の花の名前をすべて言うことができます。(筆者訳)

(61) 他钓上来一条大鱼。(《用法词典》p.625)
彼は大きな魚を一匹釣りあげた。(筆者訳)

本構造「“动态（移动）动词＋上＋“来 / 去”＋空间词以外的客体”」の客体は、上掲の文を見る限りモノ名詞（例 58, 59）・コト名詞（例 60）・ヒト名詞（例 61）である。ただし、例（60）のコト名詞“花名”、(61) のヒト名詞“鱼”はモノ名詞として扱われている。

3.2.4. “介词＋客体＋动态（移动）动词＋上＋来 / 去”構造で作る文

動詞連語“动态（移动）动词＋上＋来 / 去”と客体との関係は、上掲の構造以外に、以下の例文に見られるように、動詞連語に対して、よく介詞“把、将、从”を用いて客体を強調する用法[7]がある。

(62) 女人随将脸蛋贴上去，摩擦着汉子的那只胳膊。(『人民』93-3-111)
女は頬を寄せて、腕をさすっている。(同上)

(63) ……，用湿漉漉的手把呢大衣的领子翻上去，脚步不由得加快了。(『人民』88-3-88)
……。汗ばんできた手で外套の襟を立て思わず足の運びを速める。(同上)

(64) 待女人在窑汉怀里匀过气来，忽然想起了什么。她拿开窑汉的双臂，坐起来，双手轻轻地将其左臂衣袖捋上去，对着他缠有一块白纱布的胳膊说：“还疼吧？”(『人民』93-3-111)
男の胸の中で、やっと息がととのったとき、女ははっと気がついて、その腕をほどき、すわり直した。両手でそっと男の左の袖をたくしあげ、白い包帯を巻いた腕を見て「まだ痛む？」といった。(同上、93-3-110)

(65) “谈谈你的经验，我好、我好学习一下，把饭店的工作突上去，不然，就坏事了。”(『講読』③-88～89)
「あなたのご経験を伺って、自分もしっかり、……しっかり学んで、食堂の仕事に精を出そうと思っています。そうしないと、もういけません」(同上、p.93)

(66) 他是从一家小工厂调上来的。(《用法词典》p.625)
彼は小さな工場から回されて来たのだ。(筆者訳)

本構造「介词＋空间词以外的客体＋“动词＋上＋“来 / 去”」の客体は、モノ・コト・空間・組織

[7] このタイプの構造は、例（35）（36）のように、客体が空間詞“他从台下走上来。(《用法词典》p.625)”［彼は台の下から壇上に上がってきた。］(筆者訳) の場合もある。

などがある。例（62）の客体はカラダ名詞、（63）（64）はモノ名詞、（65）はコト名詞、（66）は組織名詞である。

なお、筆者は3.2.1～3.2.4に見られる動詞連語と客体との語順について、下記のような文を挙げ、基本的な文意は同じだが、くみあわせ（構造）が異なるので、文意に微妙な違いもあるとして、その違いも説明[8]している。

（67）温素玉又添了一盘花生米上来。（《通释》p.122）
温素玉は落花生をもう一皿持ってきた。（筆者訳）

（68）温素玉又添上了一盘花生米来。（作例）
温素玉は落花生をもう一皿持ってきた。（筆者訳）

（69）温素玉又添上来了一盘花生米。（作例）
温素玉は落花生をもう一皿持ってきた。（筆者訳）

（70）温素玉又把一盘花生米添上来了。
温素玉は落花生をもう一皿持ってきた。（筆者訳）

3.2.5. 動詞連語“动态（移动）动词＋上＋来／去”で作る文

3類の移動動詞を連用する動詞連語“动态（移动）动词＋上＋来／去”だけを用いて作る文がある。この類の文は相当数あるので、『実用②』（1991：301～302）などの先行研究では、この連語をよく動補構造あるいは動補連語と呼び、基本用法と看做している。筆者は“动态（移动）动词＋上＋来／去”と客体との位置関係は“上＋空间词”が基本であり、本構造は客体を取らないタイプとして扱っている。

（71）走下三楼，迎面张秘书走上来，老尤停住脚，站在楼梯口处，掏出手帕，抹抹油光光的额头。（『講読』②-77）
三階から下りると、向こうから張秘書が歩いてきた。老尤は足をとめて階段口に立ち、ハンカチを取り出して汗で光る額をぬぐった。（同上、p.87）

（72）“爸爸！”她迎上去，为父亲脱下身上湿淋淋的雨衣。（『人民』89-12-103）
「お父さん！」彼女は迎え出ると、びしょぬれの雨ガッパを脱がせてあげた。（同上）

（73）离休后，他发誓不再喝酒。酒瘾上来，他就默默地立在酒柜前，让身心沉醉在对往日的回忆中。（『人民』89-5-98）
退職後、もう二度と酒を飲むまいと誓った彼は、飲みたくなると、酒瓶が並んだキャビネットの前に黙然と立って、過ぎし日の思い出の中に身と心とを遊ばせるのだった。（同上、89-5-98）

筆者はこのタイプを次の3類に分けている。例（71）の語順は①「各移動動詞の行われる順序」であり、（72）は②「有様＋有様を実現する移動動詞の順序」、（73）は③「有様＋有様に伴う移動動

[8] 高橋弥守彦 参考（2016：54）に刘月华（1998）の例文と筆者の収集した例文とにより、文意のよく似た文意の微妙な違いについて言及している。

詞の順序」[9]である。このタイプ[10]では下記の例文に見られるように、動詞連語の前後に他の語句が用いられる場合がある。

(74) 绍华不顾一切地扑上去。(『人民』88-7-99)
紹華は、なりふり構わず抱きついた。(同上)

(75) 便又觉得大小实在无所谓，只要能再钓上来。(『人民』88-5-93～94)
ときには、大小などどうでもいい、もういちどかかってくれさえすればと思ったのに。(同上、88-5-94)

(76) 可想而知，没有什么鱼吞得下那巨大的鱼饵，所以等了整整一年，他什么也没钓上来。(『千字文』p.30)
当然のことながら、牛50頭の釣り餌を呑み込むことのできる魚などいるはずもなく、丸々一年間待ち続けましたが、なにも釣り上げることができませんでした。(同上、p.33)

(77) 那人走上来挺热情地抓住了我的手：“……”(『人民』89-7-102)
その人は近づいてきて、親しげに私の手をつかんだ。「……」(同上)

(78) 桌面是一抹再抹，白衬衫靠上去也不粘半点油污。(『人民』97-1-71)
テーブルも何度も何度も拭くので、白いシャツで肘をついても汚れる心配はなかった。(同上、97-1-70)

(79) 小乐子连忙冲上去抱住他的双肩：“……”(『人民』89-10-102)
楽ちゃんがとんできて、その肩を抱いていった。「……」(同上)

(80) 因为他挑瓜入了迷，就像如今的音乐发烧友听见唱片一唱就要围上去一样，他一见西瓜眼睛就发亮。(『人民』94-9-93)
あれはスイカ選びに狂ってしまったんだ。当節の音楽マニアがレコードの音楽を聞きつけるとすぐむらがってくるのとおんなじで、スイカを見たとたんに目が生き生きしてくるんだ。(同上、94-9-92)

上掲の文は、例 (74) (75) (76) が動詞連語の前に他の語句があるタイプ、例 (77) (78) はその

---

9) 荒川清秀 (2015：224～228) では3類の (移動) 動詞を下記の3類のタイプに分けている。Aタイプは3類の移動動詞の行われる順序、Bタイプは動詞目当ての動き、Cタイプはその動作の結果あるものが生み出される表現である。筆者は荒川のA・Cタイプを1タイプとし、Bタイプを1タイプとしている。
Aタイプ：走回来／歩いて帰る (2015：224)
Bタイプ：你坐过来！［こっちに来て座りなさい］(2015：226)
Cタイプ：要知道，糖尿病是吃出来和躺出来的。［糖尿病とは食べてなるものであり、寝転んでいてなるものだということを知らなくてはいけない］(2015：228)

10) 筆者の挙げる3タイプは以下の例文 (有様［移動］+“过”+“来”) にも見られる。
①：又凶：“还不走过来。”(『人民』94-5-93)［また、どなりました。「まだもどってこないのか」］(同上、94-5-92)
②：接着，又惊喜地围过来几张陌生的脸，都笑着。(『人民』94-6-93)［いくつかの見知らぬ顔が、驚きと喜びをたたえながら、次々と集まってきた。］(同上)
③：朋友们一愣，随即明白过来。(『人民』94-4-93)［友人たちは一瞬ポカンとしたが、すぐわかった。］(同上、94-1-92)
①②両タイプは実際上の移動があるが、③タイプは実際の移動ではなく意識上の移動である。

後に他の語句があるタイプ、例（79）（80）はその前後に他の語句があるタイプである。このほかに下記の例文に見られるように動詞連語の肯定形と否定形ある。

（81）这么重的箱子扛得上去吗？（《用法词典》p.626）

こんなに重い箱を担いで行けますか。

（82）我们的意见和要求反映不上去呀！。（《用法词典》p.626）

私たちの意見と要求は上司に伝えられていません。

例（81）の“扛得上去”は「“扛得上”＋“去”」であり、（82）の“反映不上去”は「“反映不上”＋“去”」である。これは例（24）の“汽车上不去那个陡坡。”や（57）“他教过许多学生，可叫不上几个名字来。”を参考にした分類である。このほか下記の例文に見られるように、動詞連語に“了”を用いるタイプもある。

（83）他终于挤上去了。（『講読』⑤-95）

押しあいへしあいして、彼はやっとのことで乗り込んだ。（同上、p.107）

（84）我在信上说我已经作为预提对象报上去了。我的本意，是想以此安慰一下父亲那颗脆弱寂寥的心灵。（『人民』96-9-87）

先日、私の名前が昇進候補者のリストにあがっていると知らせたのは、気弱で寂しがりやの親父を少し元気づけてやろうと思ったからだ。（同上、96-9-86）

（85）一会儿，猎人追了上来，问东郭先生看见一只受伤的狼没有。（『百家姓』p.162）

ほどなく猟師がやってきて、傷を負った狼を見なかったか、と東郭先生に聞き、……（同上、p.165）

（86）可又不敢上台赠送，都跑到台下扔了上去。（『人民』96-10-87）

……、ステージに上がる勇気もなくて、みんな下から放り投げた。（同上、96-10-86）

例（83）（84）は「動詞連語＋“了”」であり、文末に“了”を用いるタイプである。例（85）（86）は有様動詞の後に“了”を用いるタイプで、「“动态动词＋了＋上去”」である。これらは文中における“了”の位置の違いにより構造も異なってくる。

4. おわりに

位置移動の動詞“上”と客体との関係は「“上”＋空間詞」が基本である。「“上”＋空間詞」で作るむすびつきの“上”の機能は［表4］に示す通りである。［表4］で現す“上”の各機能が基本となり、他領域への転換（例18）が可能となる。なお、本構造であれば、“上”はいずれも述語である。

本校で対象とする2つの構造“上＋来／去”“动词＋上＋来／去”と客体との関係も、客体が空間詞で作る［表4］iii“上＋空间词＋来／去”とiv“动词＋上＋空间词＋来／去”が基本構造である。iii、ivの2構造は客体が空間詞なので、やはり「“上”＋空間詞」が基本であり、“上”はいずれも述語である。しかし、客体が空間詞以外となると、構造が複雑になる。

“上＋来／去”は客体が空間詞以外になると、他の構造「動詞連語“上来／去”＋ヒト領域の名詞」

(例 37) も作れる。“上” はいずれも述語の一部である。“动词＋上＋来 / 去” は客体が空間詞以外になると、① “动词＋客体＋上＋来 / 去” (例 50)、② “动词＋上＋客体＋来 / 去” (例 53)、③ “动词＋上＋来 / 去＋客体” (例 58)、④ “介词＋客体＋动词＋上＋来 / 去” (例 62) の 4 構造を作れる。①の構造に用いられる “上” は述語の一部 (例 50) である。②の構造であれば、述語 (例 40) と補語 (例 54) となる。③④の構造であれば、述語の一部 (例 58, 62) である。これらの構造は異なるが文意はよく似ている。しかし、構造が異なるので、文意も若干異なる (例 67～70)。

言語資料

1. 『人民中国』ショートショート　人民中国雑誌社　1988～1997
2. 『中国語学講読シリーズ』①～⑥　北京外文出版社　1991
3. 《汉语常用词用法词典》李晓琪等编 北京大学出版社　1997
4. 『百家性』物語　毕艳莉著 小松嵐译 华语教学出版社　2013
5. 『幼学瓊林』物語　张梅著　吴小璀 高桥真理子译　2013

参考文献

日本語文献

1. 荒川清秀 (2004)「空間名詞と空間化」『国文学 解釈と鑑賞』至文堂
2. 荒川清秀 (2015)『動詞を中心にした中国語文法論集』白帝社
3. 岡田幸彦 (2013)『語の意味と語法形式』笠間書房
4. 小路口ゆみ (2015)「中国語 “把” 構文における “把” の「客体」についての再考— “把” の「客体」の「定性」について—」『外国語学会誌』第 44 号　大東文化大学
5. 輿水優・島田亜実 (2009)『中国語わかる文法』大修館書店『わかる』
6. 鈴木康之 (2000)『日本語学の常識』海山文化研究所
7. 鈴木康之 (2011)『現代日本語の連語論』日本語文法研究会
8. 朱德熙著 杉村博文・木村英樹訳 (1995)『文法講義』白帝社
9. 高橋弥守彦 (2001)「 動補連語 “走出来” について 」『外国語学研究』第 2 号
10. 高橋弥守彦 (2008a)「連語論から見る “上＋空间词” について」『日本语言文化研究　日本学框架与国际化视觉』清华大学出版社
11. 高橋弥守彦 (2008b)「“上” と客体との関係について」『外国語学研究第』9 号
12. 高橋弥守彦 (2011)『中日対照言語学概論—文法編 (試行本) —』日本語文法研究会
13. 高橋弥守彦 (2014)「言語類型論から見る中国語の語順について」日中対照言語学会中国支部北京大学口頭発表
14. 高橋弥守彦 (2015)「言語と文化」『研究会報告』第 37 号　日本語文法研究会
15. 高橋弥守彦 (2016)「連語論から見る “动词＋上来 / 去” と客体との関係について」『研究会報告』第 38 号　日本語文法研究会

16. 方美麗（2002）「連語論〈移動動詞と空間詞との関係〉—中国語の視点から」『日本語科学 11』国立国語研究所
17. 方美麗（2004）「中国語と日本語の空間表現」『国文学 解釈と鑑賞』至文堂
18. 朴鐘漢（2000）「認知文法による現代中国語多義語の研究」『中央大学論集』第 21 号　中央大学
19. 朴貞姫・崔健（2004）「空間経路表現の日中対訳」『日中言語対照研究論集』第 6 号　日中対照言語学会白帝社
20. 北京語言学院編（1991）『実用中国語課本［日本語版］2』東方書店
21. 丸尾誠（2005）『現代中国語の空間移動表現に関する研究』白帝社
22. 丸尾誠（2014）『現代中国語方向補語の研究』白帝社
23. 森田良行（2005）「移動動詞と空間表現」『国文学 解釈と鑑賞』至文堂
24. 宮島達夫（1972）『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
25. 姚艳玲（2012）《日汉动词沟式的认知对比研究》『日中両語における自・他動詞構文の認知的対照研究』全国百佳出版社 中央编译出版社
26. 李臨定著／宮田一郎訳（1993）『中国語文法概論』光生館
27. 呂叔湘主編　牛島徳次監訳　菱沼透訳（1992）『中国語用例辞典』東方書店

中国語文献

1．丁崇明（2009）《现代汉语语法教程》北京大学出版社
2．耿二岭（2010）《汉语语法》北京语言大学出版社
3．李宝贵（2005）《语法精讲与自测》北京大学出版社
4．李德津 金德厚（2009）《汉语语法教学》北京语言大学出版社
5．梁鸿雁（2004）《HSK 应试语法》北京大学出版社
6．刘月华 主编（1998）《趋向补语通释》北京语言大学出版社
7．卢福波（2011）《对外汉语教学实用语法》北京语言大学出版社
8．陆庆和（2006）《实用对外汉语教学语法》北京大学出版社
9．吕文华（2008）《对外汉语教学语法探索》北京语言大学出版社
10. 单宝顺（2011）《现代汉语处所宾语研究》中社会科学出版社
11. 杨德峰（2004）《汉语的结构和句子研究》教育科学出版社

（2016 年 9 月 28 日受理）